

東洋英和女学院大学大学院

2007年度後期入学試験

問 題

人間科学研究科 修士課程

人間科学領域
幼児教育コース

小 論 文

2007年度後期 人間科学研究科共通入試問題

『毎日新聞』2007年4月18日(水)夕刊の特集ワイドによれば、国際児童基金の調査で「孤独を感じる」と答えた15歳の割合は、先進・主要国でも日本では29.8%でダントツ^{*}のことである。その理由を鷺田清一氏は欧州諸国と日本の社会的背景の差に求めている。近代日本は封建時代のように家柄、身分、性別による条件が人生をほぼ決めるのではなく、本人の努力で人生が選べる平等な社会を形成することを目指した。しかし、今日、欧州よりその近代化を突きつめてしまった。その結果、家柄や身分によってではなく「自分とはどのような存在なのか、自分の存在価値とは何なのかを、自力で証明することを求められる。」それが「自分探し」ブームで、高度消費社会と同時に始まった。しかし、そう簡単に「本当の私」を見つけることは出来ない。それゆえに孤独に苦悩し続ける、という。このことは、若者だけの問題ではない。「この国では、老いも若きもみな孤独」であり、「生き延びるため、他人との結びつきや他人からの評価に過剰に敏感になり、他人を求めすぎてしまう社会。孤独でいられない孤独。これこそが『先進国で最も孤独』の正体なのである。」以上の鷺田氏の見解をふまえて「現代人(子どもも含めて)の孤独」について、自らの研究テーマと関連させて述べなさい。(字数制限なし)

※

■「孤独を感じる」と 答えた15歳の割合(%)	
日本	29.8
アイスランド	10.3
ロシア	8.5
カナダ	7.6
オーストリア	7.2
スウェーデン	6.7
オーストラリア	6.5
フランス	6.4
ドイツ	6.2
イタリア	6.0
英国	5.4
スペイン	4.4
オランダ	2.9